縮小社会研究会

第 8 回総会（会員のみ）

日時：2020 年 3 月 17 日（火）、13：00-13：30
所：同志社大学 烏丸キャンパス 志高館 SK119　　烏丸今出川交差点より北に 500m、
地図：http://global-studies.doshisha.ac.jp/access_map/access_map.html

---

第 47 回研究会（会員でない方の参加歓迎）

日、所：同上
研究会参加費：会員は無料、非会員は 500 円

14:00-15:30　「縮小社会の都市計画-立地適正化をどう進めるか」
宗田好史　（京都府立大学教授、同副学長、和食文化研究センター長）

人口減少が進み、立地適正化計画として都市縮小の議論が全国 477 の自治体で本格的に始まった。とはいえ、先の見通せない中、多くの自治体では、住民への説明もそこそこに居住誘導区域を限定的に定め、実効性の乏しい都市機能誘導区域を置いている。拡大期の住宅取得に囚われ、低成長期を現状維持で済ませようとするからである。誰も縮小社会の可能性を見出してはいない。コンパクト・ネットワークと言ってもそんな未来の街で暮らす現実が見えていない。脱炭素社会実現に不可欠なコンパクトな地方小都市を具体的に計画できないでいる。今や現実となった縮小社会づくりを考える。

15:40-17:10　「イタリアのアルベルゴ・ディフーゾに見るスローな町宿」
森まゆみ（作家、日本ナショナルトラスト理事、東京大学情報学環客員教授）

１９７０年代、フリウリで起きた大地震で、山の上の集落は放棄された。イタリアが小邦分立で争いを繰り返していた時代、マラリアやペストが猖獗した時代、人々は難攻不落で、乾燥した山の上に街を築いた。しかし、国が統一され、病気が克服されると人は便利な平地に降りてくる。自信を契機に、山上集落の新しい住み方が提案された。それはみんなで少しずつ仕事を分担して、生活感溢れる街ぐるみの宿を作り、地域の文化で人をもてなそうということだった。それが「アルベルゴ・ディフーゾ（離れた宿）」である。

懇親会：17:30-19:30　場所：芙蓉園（烏丸今出川西入る）、費用：2000 円（ドリンク別）

参加登録：下記の自動登録よりお願いします。
http://confreg.ate-mahoroba.jp/confreg?conf_idstr=WhXWvpEkuRTXFTaRrFXw9Y1e1083

一般社団法人 縮小社会研究会　e-mail: jimukyoku@shukusho.org　HP: http://shukusho.org/